

挨拶表現に見られる日本的表現法

— 日本語、現代ギリシア語、英語、中国語の挨拶表現を対照して —

浮 田 三 郎

Japanese Phrases Expressed in Daily Greetings
-A Contrastive Analysis of Expressions of Greetings
in Japanese, Modern Greek, English and Chinese-

Saburo UKIDA

The aim of this paper is to clarify Japanese expressions used in daily greetings, in the contrastive analysis of expressions used in daily greetings in Japanese, modern Greek, English and Chinese.

In this analysis some characteristics have become clear. One of the general characteristics displayed in the greetings is structural ellipsis. The other characteristics of Japanese greetings are, as I named, “ellipsis of important words(phrases)”, “the behaviour of the objective statement”, “the modifying of expressions to suit a situation”, “self-restraint in expressions” and “expressions to suit the respective statuses of the speakers”.

In modern Greek, English and Chinese, there are also some interesting characteristics. For instance, in modern Greek plain and respective expressions are in the opposite relation. In modern Greek and English there is the scope to express important words and to express one's opinion and Chinese has somehow the same tendency as modern Greek, etc.

はじめに

日本語と他のいくつかの言語（現代ギリシア語、英語、中国語）の慣用的な挨拶表現を対照比較してみると、その表現の仕方にいくぶんかの差が見られる。それは、明らかな差であったり、微妙な差であったりするが、そこには、それぞれの言語社会の文化的な背景とかものの考え方とかが窺える。

本考察では、日本語と現代ギリシア語あるいはその他いくつかの言語の語用論的に相対応している慣用的な挨拶表現を対照比較することにより、特に日本語の挨拶の表現法ある

いは表現構造に見られる視点とかものの考え方の特徴を明らかにしてみたい。

ところで、ここで取り扱う慣用的な挨拶表現とは、会った時や別れる時に発せられる代表的な挨拶表現で、ごく普通に見聞きするような簡単な表現に限ってみた。

1. 挨拶表現に見られる省略

世界の言語における一般的な挨拶表現を構造的に見ると、いくつかの特徴が見られるが、一般的な特徴として「省略」が挙げられる。ほとんどの言語で多くの表現が省略の構造をもっていると想定される。例えば(以下に掲げる、(J)、(G)、(E)、(C)の記号は、それぞれ日本語、現代ギリシア語、英語、中国語を指す)¹⁾、

(J1) おはよう。

(G1) *Καλημέρα.*²⁾

(E1) Good morning.

(C1) 你好。³⁾

(J2) こんにちは。

(G2) *Καλημέρα. /Καλησπέρα.*⁴⁾

(E2) Good afternoon.

(C2) 你好。³⁾

(J3) こんばんは。

(G3) *Καλησπέρα.*

(E3) Good evening.

(C3) 你好。³⁾

(J4) おやすみ。

(G4) *Καληνύχτα.*

(E4) Good night.

(C4) 晚安。

(J5) さようなら。

(G5) *'Αντίο.*⁵⁾

(E5) Good-bye.⁶⁾

(C5) 再見。

のような表現を見てみると、(J 1)～(J 5)の場合、大小の差はあるものの、全ての場合に省略が見られる。現代ギリシア語の場合も英語の場合も省略の構造が想定され、中国語の場合(C 4)と(C 5)に省略があると考えられるが、(C 1)～(C 3)の表現はそうでもなく、省略があるとはみられない。

ただし、(J 1)と(J 4)には、同じく繁用される敬語表現あるいは丁寧な表現

(J 1') おはようございます。

(J 4') おやすみなさい。

が考えられるが、(J 4')の場合は省略はない。ところで、(J 4)の場合は、「やすみ」とか「やすめ」とはならず、「おやすみなさい」の尊敬の助動詞「なさい」(「なさる」の命令形)が省略された形と考えられ、「おやすみ」も「おやすみなさい」も命令文の形で、両者は伝達内容と機能に関しては同様であるが、省略によって伝えられる違いは、(J 4')が敬体で(J 4)が非敬体という違いであり、待遇関係を考えれば、両者の差は重要である。

(J 1')の表現は、{オハヤク「お早く」の音便形}+{「ござる：居る、ある、来る、行く」}と考えると、「あなたは、お早く、いらっしゃいますね」とか「お早く、来られましたね」と言い換えてみる事ができ、省略は、人称代名詞の「あなたは」が省略されているだけと考えることもできるが、日本語の文成分にこのような人称代名詞を考える必要がないという立場に立てば、省略はないとも考えられる。また、「ござる」が丁寧の「ある」であれば、前者の「居る」とか「来る」とかの意味のある語が省略されていると考えることができる。

いずれにしても、相手と遭遇した時間がその日の内で早い場合に使われる表現で、相手が来たり居たりする行為が早いことに言及しているものであり、表現としては客観的陳述文で、中国語の場合と類似している。

ところで、このような敬語表現に関して見ると、(J 2, 3, 5)には、(J 1, 4)の場合のように対応する敬体が見られない。ただ、(J 5)に対しては、

(J 6) しつれいします。

c f. (G6) *Χαίρετε.*

(E6) I'm afraid that I must say good-bye.

(C6) 我告辞了。

のような表現が尊敬表現としてしばしば使われ、敬体と非敬体が対立的な関係になっている。

また、(J 2, 3)に対しても

(J 7) ごめんください。

c f. (G7) *Χαίρετε.*

(E7) Hello!

(C7) 有人嗎？

のような表現が考えられるが、これは非常に限られた場合で、同様なケースとしてここでは考えない方がよいであろう。

これらの日本語の表現に対して、現代ギリシア語の表現 (G 1～5) や英語の表現 (E 1～5) には、構造的に省略が見られる。即ち、例えば、(G 1) と (E 1) は、構造的にも内容的にもほぼ同様に、一種の祈願文と考えられ、これらの表現は、省略によりできたものと仮定すれば、基本的 (深層的) な文は、

(G1') Σοῦ εὐχομαι νᾶ ἔχεις μιᾶ καλή μέρα.

(E1') I hope you have a good morning.

などのように考えることができ、直訳的な日本語にしてみると、「あなたが良い日を持ちますように」とか「あなたに良い日でありますように」などと訳される文になり、文章の前半部が省略されていると考えることができる。以下 (G 2～4) も (E 2～4) も同様に考えることができる。

ただし、(G1') も (E1') も、それぞれ挨拶表現としての (G1)、(E1) と同様には使用されない。

また、現代ギリシア語では、

(G1-2): Καλημέρα σας.⁷⁾

(G1'-2): Σᾶς εὐχομαι νᾶ ἔχετε μιᾶ καλή μέρα.

などといった表現も考えられる。意味は、ほぼ上記の通りであるが、このように、現代ギリシア語の場合は、人称と数によって、人称代名詞、所有代名詞、動詞の形が異なり、2人称複数形で敬語表現を作り出すことができる。例えば、このような場合は、所有代名詞 *sas* によって、また、人称代名詞 *sās* と動詞の接続法の *νᾶ ἔχετε* によって敬語表現を形成している。相手が複数人であった場合も、尊敬の印象は伝わる。詳しくは後で述べよう。

2. 省略の特徴

ところで、その省略の型を見てみると、日本語とその他のいくつかの言語の省略の仕方には、それぞれいくつかの特徴がみられる。前節でも (J1) (G1) (E1) の場合は少し検討したが、その他の表現の省略の無い基本的 (深層的) な文を考えて、対応させてみると (記号*は、普通は使用されない表現を示す)、

- | | |
|--------------------|--|
| (J1) おはよう。 | —(J1') (*あなたは) おはようございます。 |
| (G1) Καλημέρα. | —(G1') Σοῦ εὐχομαι νᾶ ἔχεις μιᾶ καλή μέρα. |
| (E1) Good morning. | —(E1') I hope you have a good morning. |
| (C1) 你早。 | —(省略無し) |

- (J2) こんにちは。 —(J2') 今日は、(、)、色々考えられる。
 (G2) Καλημέρα. /Καλησπέρα. —(G2') Σοῦ εὐχομαι νᾶ ἔχεις μιᾶ καλή μέρα.
 (E2) Good afternoon. —(E2') * I hope you have a good faternoon.
 (C2) 你好。 —(省略無し)
- (J3) こんばんは。 —(J3') 今晚は、(、)、色々考えられる。
 (G3) Καλησπέρα. —(G3') * Σοῦ εὐχομαι νᾶ ἔχεις μιᾶ καλή ἑσπέρα.
 (E3) Good evening. —(E3') I hope you have a good evening.
 (C3) 你好。 —(省略無し)
- (J4) おやすみ。 —(J4') おやすみなさい。
 (G4) Καληνύχτα. —(G4') * Σοῦ εὐχομαι νᾶ ἔχεις μιᾶ καλή νύχτα.
 (E4) Good night. —(E4') * I hope you have a good night.
 (C4) 晚安。 —(C4') 你晚上安睡。(の短縮文)
- (J5) さようなら。 —(J5') さようなら、(、)、構文的には後略)。⁸⁾
 (G5-1) Ἄντιο. —(G5-1') * Σοῦ εὐχομαι νᾶ εἶσαι μαζί μέ τό Θεό.
 (G5-2) Γεία σου. —(G5-2') * Σοῦ εὐχομαι νᾶ ἔχεις ἰγεία.
 (E5-1) Good-bye. —(E5-1') * I wish god be with you.
 (E5-2) See you. —(E5-2') I will see you later.
 (C5) 再見。 —(C5') 我再見你。

などのように考えられる。ただ、中国語の場合は、一応、(C 1～3)は、完全な文であり、(C 4, 5)は、上記のような省略が考えられるが、これらも完全な文だとみなす説もある。

このように、単純に構造的に見れば、(J 2, 3)は後略的、(G 1～4)や(E 1～4)は前略的であり、内容的には、前者は伝達内容の核となる重要語句が省略される形、後者は伝達内容の核となる重要語句が表出されている形と言えるであろう。これらを仮に重要語句省略型と重要語句表出型と名付けると、(J 2, 3, 5)は、重要語句省略型で、その他の(J 1, 4)、(G 1～5)、(E 1～5)、(C 1～5)は、全て重要語句表出型と言うことができる。

この省略の仕方を簡単な対応表にしてみると、

省略形	表出型	用例
前略的 後略的	重要語句表出型 重要語句省略型	G 1～5, E 1～5 J 2, 3, 5
(省略的) (非省略的)	重要語句表出型 重要語句表出型	J 1, C 4, 5 J 4, C 1～3

となり、日本語の場合、他の言語に比べて、重要語句を省略した表現がよく使用されていることが分かる。日本人の曖昧な表現法が窺える。

3. 文の形の特徴

1) 文の形

文の形は、2章でも検討したように、省略形の文もその深層的な文の形を考えてみることができる。そこで1章でみた表現を、便宜的にはあるが、(1) 陳述文形、(2) 命令文形、(3) 願望文形の形で分類してみると、下の表のようになる。

文の形	用例
(1) 陳述文形	J 1 J 2 J 3 J 5 J 6 C 1 C 2 C 3 C 4
(2) 命令文形	J 4
(3) 願望文形	G 1 G 2 G 3 G 4 G 5 E 1 E 2 E 3 E 4 E 5 C 5

この表からみる限りでは、日本語と中国語の表現のほとんどは陳述形であり、現代ギリシア語と英語の表現は願望文の形である。一般的に言って、願望文の形の場合が話者の意向(気持ち)がより強く反映されている表現と言えるであろう。逆に、陳述形の表現は、単に事実を客観的に述べているに過ぎず、話者の意向は反映されていないと考えられる。

2) 客観的 vs 主観的

次に、表現が主観的表現であるか客観的表現であるかを問題にしてみよう。これも少々便宜的ではあるが、一般的に、主観的表現では、話者の気持ちがその文（表現）によりよく反映されていると言え、客観的表現では、その逆で、状況とか事実とかが客観的に述べられる表現と言えるからである。

文の形式から分類して、大ざっぱに言えば、命令文や願望文は主観的で、陳述文は客観的だと言えるであろう。

しかし、中国語の場合は、構文的には陳述の文としか考えようがないのであるが、内容的には相手のそのような状態を願って発せられる祈願文的あるいは疑問文的な表現と考えられる表現もある。例えば、(C2)、(C3)がそうである。即ち、これらの挨拶は、相手が元気な状態ではなくても発話されるので、単純な陳述文とは考えられないからである。

このことと、1)でも少し述べたような文の形の上の分析からみると、全体的には、日本語の挨拶表現は客観的な表現が多く、現代ギリシア語と英語の挨拶表現は（中国語の表現も含めて）、主観的な表現で構成されていることが分かる。このことは、他の言語の挨拶表現との比較でみられる日本語の挨拶の表現法の特徴と言えるであろう。

4. 言及内容

次に、表現が何に言及しているかあるいは言及しようとしているかを考えてみよう。この場合も、2章で検討した復元可能な省略されていない表現も考えて、言及内容を考えてみることにする。

言及内容の要素には、人間（人間の行為）、物、時間、天候、神などの要素を考慮して、以下のようにそれぞれの表現について、表を作成して検討してみよう。記号+は、何らかの形で言及がある場合、記号-は言及されていない場合を示す。

用 例	言及内容	人間、物、時間、天候、神				
(J1) おはよう。		+	-	+	-	-
(G1) Καλημέρα.		+	-	+	+	-
(E1) Good morning.		+	-	+	+	-
(C1) 你早。		+	-	+	-	-

(1)の挨拶表現の場合は、あまり差がないが、現代ギリシア語と英語の場合「良い」は、漠然と全体的な事柄に言及せんとし、人間、時間さらに天候にも言及しているとみるべき

であろう。中国語は日本語と同様で、時間への言及が強調されている。

用 例 \ 言及内容	人間、物、時間、天候、神				
(J2) こんにちは。	-	-	-	-	-
(G2) Καλημέρα. / Καλησπέρα.	+	-	+	+	-
(E2) Good afternoon.	+	-	+	+	-
(C2) 你好。	+	-	-	-	-

(2)の挨拶表現の場合、日本語の場合は非常に漠然としていて、何に言及しようとしているのか分からない。現代ギリシア語と英語の場合は、(1)の場合と同様であり、中国語の場合は、人間には言及しているが、「好」が天候に言及しているのか明らかでない。

用 例 \ 言及内容	人間、物、時間、天候、神				
(J3)こんばんは。	-	-	+	-	-
(G3) Καλησπέρα.	+	-	+	+	-
(E3) Good evening.	+	-	+	+	-
(C3) 你好。	+	-	-	-	-

(3)の挨拶表現の場合も、日本語の場合、時間には言及しているが、その他のことには非常に漠然としていて、何がどうだということは分からない。現代ギリシア語と英語の場合は、(1)、(2)の場合と同様であり、中国語の場合は、(2)の場合と同様である。

用 例 \ 言及内容	人間、物、時間、天候、神				
(J4) おやすみ。	+	-	-	-	-
(G4) Καληνύχτα.	+	-	+	-	-
(E4) Good night.	+	-	+	-	-
(C4) 晚安。	+	-	+	-	-

(4)の挨拶表現の場合は、日本語の場合、人間の「やすむ」という行為にしか言及していないが、伝達内容ははっきりしている。一方、現代ギリシア語、英語、中国語の場合は、人間と時間にも言及しているが伝達内容はほぼ同じようである。

用 例	言及内容	人間、物、時間、天候、神				
(J5) さようなら。		-	-	-	-	-
(G5-1) 'Αντίο.		+	-	-	-	+
(G5-2) Γέια σου.		+	-	-	-	-
(E5-1) Good-bye.		+	-	-	-	+
(E5-2) See you.		+	-	-	-	-
(C5) 再見。		+	-	-	-	-

(5)の挨拶表現の場合は、日本語の場合は、(2)の場合と同様、非常に漠然としていて、何に言及しようとしているのか分からない。現代ギリシア語と英語の場合は、人間と神に言及しているのが日本語と中国語の表現と比較して特徴的である。ただし、現代ギリシア語の場合は、Γέια σου.などと健康に言及した表現もよく使われるし、英語の場合は、See you.と中国語と同様な表現も使われる。何れの場合でも、伝達内容ははっきりしている。中国語の場合も、人間の行為に言及しているだけであるが、伝達内容は明白である。

以上5つの場合から見ると、日本語の場合、(1)と(4)の場合は伝達内容がはっきりしているが、そのほかの3つの場合は、伝達内容が漠然としているのに対して、現代ギリシア語、英語、中国語の場合は大体伝達内容は明白である。ここにも日本人の曖昧な表現を好む態度が表出されているようである。

次に、人間に関する言及の有無を調べてみると、日本語の場合は、(2)、(4)では人間に関する言及があるが、(1)、(3)、(5)ではそれらがみられない。他方、現代ギリシア語、英語、中国語の場合は、全て人間に関する言及があり、人間中心主義であることが分かる。

それに対して、「おはよう」は人間に関する言及も含まれるが、客観的に状況を述べている陳述の文で、状況主義的である。その他(2)、(3)、(5)の日本語の表現も、上で見たように、漠然とその時の状況のほんの一部を述べたに留まっており、やはり状況中心主義と言って良いであろう。

5. 自己主張の仕方 (「自己主張型」と「自己控え型」)

言及内容と表現形式からみると、(J4)は主観的で自己主張の表現と考えられるが、その他の(J1, 2, 3, 5)は、状況中心の表現である。ギリシア語と英語の場合は、(1)から(5)まで省略はされているが、話者が自分の気持ちを主張している。中国語の場合は、(C1)の場合のみ状況中心で、(C2~5)は、話者が自分の気持ちを伝えようとしている表現である。

このようにみると、限られた表現からではあるが、日本語の表現は、全体的には、「自己控え型」で、自分の意志の表明に関しては曖昧な態度であるのに対して、現代ギリシア語、英語、中国語の場合は、自分の意志表明に関して積極的で、「自己主張型」と言えるであろう。⁹⁾

6. 敬体と非敬体

次に、非敬体の表現と敬体表現の関係を見てみよう。上に掲げた非敬体の表現を中心に、それぞれの表現に対応する敬体の表現があるかどうかを調べてみると、下の表のようになる。

用例	J 1 2 3 4 5 6	G 1 2 3 4 5	E 1 2 3 4 5	C 1 2 3 4 5
非敬体	+++++-	+++++	+++++	+++++
敬体	+---++	+++++	-----	+++---

これを見ると、敬語表現の整っている筈の日本語の場合、(J 2, 3, 5)には敬体の表現が無いのが分かり、興味深い。ただし、(J 5)の場合は、(J 6)の表現がこの敬体の表現の代用になっている。挨拶表現に限らず、この他の場合でもほとんどの場合、敬体と非敬体の表現が対立的な関係を作っている日本語にあって、非常に日常的なこの挨拶表現に敬体が無いのは何故であろうか。恐らくこの答えは、上でも述べた「状況中心主義」「自己控え型」「曖昧主義」が、この「穴」の問題を解決してくれるであろう。即ち、「こんにちは」も「今晚は」も相手の行為などに何も言及しておらず、自己主張もない訳で、敬語表現を使わなくても許される表現となったものであろう。

現代ギリシア語の場合は、全ての表現に敬体の表現が存在しているが、これは、所有代名詞や人称代名詞の2人称複数形の使用により簡単に表現されたり、動詞の2人称複数形を使うことにより表現される。例えば(動詞を含む文章には直訳を施す)、

(G1) Καλημέρα. - Καλημέρα σας. - Σᾶς εὐχομαι νᾶ ἔχετε μιὰ καλὴ μέρα.
 (「よい日をお持ちになりますようにお祈りします」)

(G3) Καλησπέρα. - Καλησπέρα σας. - * Σᾶς εὐχομαι νᾶ ἔχετε μιὰ καλὴ ἑσπέρα.
 (「よい夕べをお持ちになりますようにお祈りします」)

(G4) Καληνύχτα. - Καληνύχτα σας. - * Σᾶς εὐχομαι νᾶ ἔχετε μιὰ καλὴ νύχτα.
 (「よい夜をお持ちになりますようにお祈りします」)

(G5) Ἄντιο. / Γεία σου. - Ἄντιο σας. / Γεία σας.

(G5-2) Γεία σου. - Γεία σας. - * Σᾶς εὐχομαι νᾶ ἔχετε ἰγεία.

(「御健康をおもちになりますようにお祈りします」)

(G5-3) (* *χαίρε*). - *Χαίρετε*. (「お喜びになってください」)

などである。また、同様に、願望法の機能小辞 *äs* を使った、願望法の文も、考えられるが、名詞(句)に所有代名詞 *σας* を付加するか、人称代名詞 *σας* や動詞の接続法あるいは願望法の2人称の複数形 *νά έχετε, äs έχετε* あるいは命令法の2人称複数形 *χαίρετε* を使用することにより、敬体の表現を不自由なく形成している。

これに対して、英語の場合は、現代英語では本来の2人称の複数形で敬体としても使用されていた *you* が既にその機能を果たさなくなっているのも、興味深い。

また、中国語の場合、(C 1, 2, 3) では、「你」の尊敬体の「您」が使われ、尊敬表現を作り出すが、(C 4, 5) では、それができない。それは、恐らく日本語の場合に似て、(C 4, 5) は、表層の表現に人間(相手)に関する言及が無いからであろう。

おわりに

以上のように、日本語と他の言語の日常の挨拶表現を対照比較して得られた特徴をまとめてみると、ここで取り扱った言語の挨拶表現には、一般的には省略法が見られる。

次に、日本語の挨拶表現の特徴を見ると、省略法の他に、重要語句省略型の表現法、客観的陳述型、状況表現主義型、自己控え型、待遇表現重視型といった表現法が特徴と言える。

それに対して、現代ギリシア語と英語の挨拶表現の場合は、省略法の他に、重要語句表出型であり、願望表現などが基になった主観的主張型であり、人間中心的表現型、自己主張型の表現法が特徴であると言える。また、現代ギリシア語の表現には敬語表現が完備されていることも特徴であるが、日本語の待遇関係ほど重要であるかどうかは今回検討に至らなかった。英語の挨拶表現の場合には、表現上はこれと同様な敬語表現は形成されないことも分かる。

中国語の挨拶表現の場合は、省略法に関しては必ずしも省略の表現が多いとは言えないが、概して現代ギリシア語の場合と同じような特徴があると言ってよいであろう。敬語表現も人称代名詞の使い分けによって可能な場合が多いことも分かった。

以上のように、濃縮された日常の挨拶表現の中に、よく言及される日本人の「曖昧さ」とか「物事をはっきり言わないでおく」姿勢などが窺える。もっとも、我々が上で分析した程の内容を全て考えて、これらの挨拶表現を使っているかどうかは、また別の問題であろう。

以上、今回の分析では、限られた日常の挨拶表現のみを扱ってみたが、その他、動詞を含むいろいろな表現においては、どのような傾向が見られるかも興味のある問題である。またの機会の課題にしておこう。

注

- 1) 現代ギリシア語の用例に関しては、ギリシアからの留学生パナイオティス・グレコスさんにコメントをお願いした。
英語の場合は英国からの留学生ジェンマ・バーネットさんに、また、中国語の場合は中国からの留学生李萍さんにコメントをお願いした。
- 2) *Καλημέρα* の他にも時間に関係なく *Γεία σου(σας). Χαίρετε* など使用される。また、これらは、別れの時にも使われる。注の 4)、5) も参照。
- 3) それぞれ、(C1)早上好、(C2)下午好、(C3)晚上好と言う表現もあるが、英語の翻訳的表現で、あまり使用されない。
- 4) *Καλησπέρα* は、午後のかかなり早い時間から使用され、必ずしも「今晚は」ではないようであるが、「今晚は」に当たる時間帯ではやはり *Καλησπέρα* が使用される。また、時間に関係なく *Γεία σου(σας). Χαίρετε* など使用される。
- 5) *Ἄντιο*。(「神のおそばに」) の他にも *Γεία σου(σας). Χαίρετε. Στό καλό. Καλήν ἀντάμωση* などが使われる。
- 6) Good-bye. (=God with you) の他に See you. もよく使用される。
- 7) 2人称複数場合は、人称代名詞あるいは所有代名詞 *σας* がしばしば使用されるが、単数の場合は単数形の *σου* は使用されない。興味ある現象といえる。
- 8) 奥山益朗 編、1970、『あいさつ語辞典』では、前略的と説明があるが、構文的には主節が省略されている。
- 9) 野元菊雄・野林正路 監修、1975、『ことばと文化 ー日本語と文化・社会 3ー』、p.21, pp.28 参照。

参考文献

- 大河内康憲、1982、「中国語構文論の基礎」、『講座日本語学10・外国語との対照 I』(森岡健二他編集)、明治書院
- 大河内康憲、1973、「日中対照文法論ー主語及びそれとかかわる問題ー」、『日本語と日本語教育ー文法編ー』、文化庁
- 奥山益朗 編、1970、『あいさつ語辞典』、東京堂出版
- 蒲谷宏、1993、「待遇表現における省略」、『日本語学』、9月号、vol.12 明治書院
- 金田一春彦 編、1975、『ことばの研究室 日本語の特色』、聖省堂
- 関本至、1968、『現代ギリシア語文法』、泉屋書店
- 野元菊雄・野林正路 監修、1975、『ことばと文化 ー日本語と文化・社会 3ー』、三省堂
- Μπαμπηνώτου, Γ. -Κοντοῦ, Π., 1967, *Συγχρονική Γραμματική τῆς Κοινῆς Νέας*

Ἑλληνικῆς, Ἀθῆναι.

Τσαρτζάνου, Α. Α., Νεοελληνικὴ Σύνταξις, Τόμος Α', 1946(Β' ἔκδοσις), Τόμος Β',
1963(Β' ἔκδοσις), Ἀθῆναι:Ο.Ε.Σ.Β.

Τριανταφυλλίδη, Μ., 1976, Νεοελληνικὴ Γραμματικὴ, Ἀθῆναι:Ο.Ε.Δ.Β.